

令和7年度 江戸川区立大杉小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標		○おもいやりのある子（徳） ◎すすんでとりくむ子（知） ○けんこうな子（体）				目指す学校像 目指す子供像 目指す教師像	「明日も行きたくなる、みんなの学校」 ①自分の考えをもち、目標に向かって歩み続ける子 ②ともに認め合い、助け合い、高め合う子 ③健康で安全な生活を心がけ、すすんで運動する子 ①子供を深く理解し、情熱をもって育てられる教師 ②着実に準備し、よくわかる・楽しい授業に努める教師 ③教育公務員としての自覚と責任をもち、子ども・保護者・地域から信頼される教師							
前年度までの本校の現状		成果	・不登校0。軽微ないじめも積極的に認知、早期対応、早期解決を組織で行い重大事態にならなかった。 ・R5年度と比べ全国学力テストの数値が全体的に上がった。 ・全教職員が「安全・安心な学校」の共通理解し、大きな事故、事件もなかった。				課題	・児童の学力の向上に向けた具体的施策と教師の授業力向上と授業改善 ・児童の体力の向上に向けた具体的施策と教師の授業力向上と授業改善 ・学校組織の強化						
重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
確かな学力の定着	○授業改善の推進と基礎・基本の力の定着	・授業準備（板書計画・発問等）を確実にを行い、「わかった」「できた」「楽しい」の授業改善を行っているかを授業観察で確認する。 ・学校独自の取組である九九検定、漢字王などを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・「ことばの教室」と連携し、低学年のMIMの学習を向上させる。	・年間3回以上の授業観察による指導。若手教員は月1回以上。 ・各学年で、東京BDの正答率70%以上。 ・九九検定・漢字検定は、80%以上、たし算・ひき算の100マス計算において、合格者を50%以上 ・MIMの結果を3回以上実施する。初回の状況と比較し、10%以上とする。	C		C	・授業観察を9月迄に2回実施し、授業改善を図った。 ・東京BDは2年75.5%3年62.1%4年49.0%5年62.9%6年45.3%。学年・学級による差が激しい。校内放課後教室で支援していく。 ・九九検定は、3年生以上で約70%。たし算・ひき算については、問題数の少ない25問計算から取り組んでいる。 ・6月、7月にMIM実施し、改善がすすんだ。	B	・東京BDは、達成している学年もあるため、引き続き頑張て欲しい。 ・九九検定は、昨年度から始めているようだが、徐々に合格者が増えてきていると聞いている。効果がでてきていると感じる。	A	・授業観察を3回実施、教師の授業改善を図り、様々な取組み結果は以下の通り。 【東京BD】2年～6年 2年64.7%→77.4%（+12.7） 3年48.5%→66.5%（+18.0） 4年44.5%→56.2%（+11.7） 5年53.7%→64.2%（+10.5） 6年40.2%→54.9%（+14.7） 【足し算引き算検定】1年 足し算72.2%合格 引き算27.7%合格 【九九検定】全学年88%合格	A	・先生方が授業改善を図ったことで、東京BDや九九検定等すべての学年で大きな成果が見られている。先生方の努力はもちろん、それ以上に子どもたちの頑張りが見え、その課題を見出し、その課題が解決できる新たな取組を校内で考え、実施していく。	・今年度の様々な取組の結果、大きく成果を出すことができた。その中でも課題を見出し、その課題が解決できる新たな取組を校内で考え、実施していく。
	○読書科の充実	・「調べる学習コンクール」に参加させ、本で調べたり、探究したりする力を高めていく。	・外部講師を招いて、調べる学習の研修を1回以上実施し、児童の指導に生かす。	A		A	・7月、講師の先生をお招きし、3,4年生の児童に指導をしていただいた。さらに、教員対象の研修を行った。	A	・自分たちで課題を見つけ、調べることは、主体性を養う上でよい取組だと思う。	A	・調べる学習コンクールでは、ほぼ全員が参加。年々児童の意欲、作品の質も向上している。	A	・「調べる学習コンクール」の全員参加の意識向上、それに伴って子どもたちが本を読むことの大切さやその習慣化が学校でできていることがわかった。	・今年度同様に継続していく。
体健 づやく かりな	○個に応じた体力向上の充実	・持久力・瞬発力を重視し、児童の基礎体力の向上を図る。 ・週1回の全校運動遊びやなわとびウィークを実施し、運動習慣の定着を図る。	・3分間走やシャトルラン・反復横跳びの記録がR6年度を上回る。 ・短なわ跳び（前跳び等）の得点が初回の得点より5%上昇。	C		C	・50m走は平均を上回っている児童が増えたが、シャトルラン・反復横跳びの記録は伸び悩んだ。2学期に目標を再確認し、記録をとる予定。 ・前跳びを151回以上跳べる児童が10人→50人。	B	・50m走の記録が上がってきていることは素晴らしい。 ・以前から、持久力が課題と聞いている。持久力向上には時間がかかると思うが、今季強く指導してほしい。	A	・前跳びを151回以上跳べる児童が50人→112人。 ・シャトルランの平均回数が29回→32回（全国平均38回）	A	・学校が持久力・瞬発力を重視し、児童の基礎体力の向上を図るために取り組んだことが大きく数字に表れている。体力を付けることは大切。今後も継続し、子どもたちの体力をさらに向上をお願いします。	・今年度の様々な取組の結果、大きく成果を出すことができた。他校のよい取組等を参考に持久力・瞬発力だけでなく、体力全体を付けていく取組を新たに考えていく。
育 成	豊かな心 ○全教育活動を通して、人権教育の理解と充実	・あらゆる場面を通して、人権教育を深めていく。安心安全な学校生活を送れるよう「あたりまえ習慣」の定着を図るとともに、「人の役に立とうとする態度」を育てていく。	・「あたりまえ習慣」を中心とした児童アンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上。	B		B	回答は「できる」「もう少し」の2択である。全部で5つの項目があるが、平均約64%である。高い項目は挨拶・仕事・相手を思いやる。低い項目は、整理整頓・決まり関係の項目。	B	・5項目が1週間の中で意識できるのはよいアイディアだと思う。低い項目についても、意識させてほしい。	B	・安心安全な学校生活を送れるよう「あたりまえ習慣」の取組を実施。現在では児童アンケートだけでなく、児童の行動にも表れている。	B	・勉強することも大切ですが、5つの柱からなる「あたりまえ習慣」の子ども達への定着ができてきていることはとてもよいことだと思います。	・今年度同様に継続するとともに、頑張っている児童を表彰することを認め、検討していく。
推 進	特別支援教育 ○特別支援教育の推進	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、ことばの教室との連携を実施し、早期発見・早期支援を図る。	・児童の困り感を丁寧に見取り、適切な支援につなげていく。	B		B	・ことばの教室や特別支援教室専門員の先生、スクールカウンセラーの先生が、低学年を中心に児童の様子を観察し、早期発見・早期支援につなげた。	B	・早い段階から、専門の先生方と連携しながら支援を行うことは非常によいことだと思う。今後も支援がすすむことをのぞむ。	B	・困り感のある児童及び保護者に対して早期支援をすることができたため、よりよい関係構築につなげることができた。	B	・特別な支援を要する子どもが多くなってきているとニュースでよく聞いている。先生方もその対応で大変だと思いますが、継続して早期支援の学校体制でお願いします。	・今年度同様に継続していくとともに、困り感を察知できる教職員を校内研修等で育てていく。
不 登 校 防 止	いじめ防止、不登校防止研修の実施	・SC及びSSWとの連携強化し、全教職員が、いじめ・不登校の未然防止・早期支援・早期対応への意識を高め、組織で対応する。	・いじめ防止授業と校内研修会をそれぞれ年3回以上実施。 ・不登校児童0、いじめがあった場合は年度内解決。	B		B	・いじめ防止授業、校内研修を1回実施済み。 ・現在、不登校や不登校気味の児童は数名いる。重大案件になるいじめは0。	B	・いじめに対する先生方の意識の高さを感じる。 ・引き続き、不登校の児童や不登校気味の児童に寄り添う支援を続けてほしい。	B	【いじめ】 ・いじめ重大事態が1件 ・いじめ認知件数が1件すべて解決済み。 【不登校】 ・不登校児童数は数人。担任及びSCと連携するとともに組織対応している。	B	・全国的にどの学校でもいじめ、不登校は学校において大きな問題。懇切丁寧に対応はもちろん、いじめ及び不登校を出さない視点で取り組んでほしい。	・いじめ、不登校の校内研修を実施し、いじめ及び不登校を出さない学校体制にしていく。
学 校 の 開 か れ た 地 域 社 会 に 関 心 を も つ	情報発信の充実	・学校HP及びteamsuやtetoru等で必要な情報を迅速に送る。アンケート等から改善を図る。	・学校HPの更新毎日、teamsuやtetoruでの定期的な情報発信。 ・アンケート等を活用し、改善を図るとともに、丁寧な説明及び回答。	A		A	・学校HPの更新毎日実施できた。不審者情報等、速やかに発信することができた。 ・運動会のアンケートから改善できることをすぐに計画に盛り込んだ。	A	・ホームページが毎日更新されているのは、素晴らしい。学校生活の様子がわかり、保護者も安心すると思う。	A	・地域に開かれた大杉小学校の実現のため、学校HP及びtetoruを中心に様々な情報を速やかに発信することができた。	A	・学校HPは定期的に拝見してまです。年々レイアウト、内容も精選されていてとても見やすくなっています。	・今年度同様に継続し、さらにスピード感をもって学校からの情報を公開していく。

<p>教育の展開 特色ある</p>	<p>○働き方改革の推進</p>	<p>・教職員が自らのペースで使える時間を増やす。</p>	<p>・全教職員の月残業時間45時間以下。 ・育児休暇や年休等の取得を15日以上。 ・会議の回数や時間をR6年度よりも10%減少。</p>	<p>B</p>		<p>B</p>	<p>・月残業時間45時間以下の人数が月を追うことに増加。 ・夏季休業中を含めると、80%以上が15日以上の年休等を取得。 ・会議の回数や時間をR6年度より5%減少。</p>	<p>B</p>	<p>・働き方改革がすすんでいることを感じる。これが当たり前ようになっていけば、先生達も気持ちの余裕が生まれ、結果的には、子供に対してもよい影響を与えると思う。</p>	<p>B</p>	<p>・全教職員の月残業時間45時間以下の教職員は2人。 ・育児休暇や年休等の15日以上取得した教職員は100% ・会議の精選を実施したことにより、教職員が児童と触れ合う時間や教材研究する時間が以前より確保できた。</p>	<p>A</p>	<p>・子どもたちにより授業をするためには先生方の健康で元気なことが何よりです。 ・教職員が自らのペースで使える増えた時間で、今年度実現したように児童と触れ合う時間を中心に保護者にも寄り添うこともぜひお願いします。</p>	<p>・学年、校務分掌によって残業時間が多くなる教員がいるため、偏りのない校務分掌等にしていく。</p>
-----------------------	------------------	-------------------------------	---	----------	--	----------	---	----------	--	----------	---	----------	---	--